禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D19

「中央職業能力開発協会編」

令和5年度 技能検定
3級 建築大工 学科試験問題
(大工工事作業)

1. 試験時間　1時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
      イ. 一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ハ. 答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

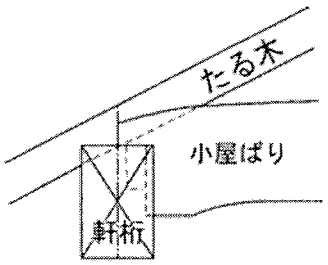
1　真壁造とは、柱を隠す構造をいう。

2　日本で従来から用いられてきた木造の柱、はりを主要構造とした住宅構法は、枠組壁構法である。

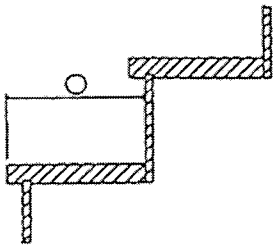
3　木構造において、継手位置は、強度上の弱点となる。

4　木造軸組構法において、一般に、壁には筋かい、床組及び小屋ばり組の隅角には火打ち材を入れる。

5　次図の軒桁と小屋ばりの取合いを、京呂組という。

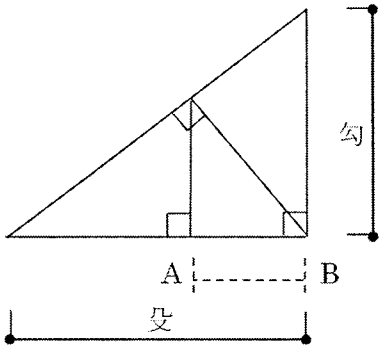


6　次図の階段の断面図において、踏面寸法は、○印の部分である。



7　基本図における平たる木の長さは、勾配(こうばい)勾玄(こうげん)の玄である。

8　次図の直角三角形において、破線A－Bは、小叉(しょうこ)の値と同じである。



9　さしがねの裏目(角目)1は、一辺が表目1の正方形の対角線である。

10　平たる木の側面を立水に切るには、平勾配(こうばい)の返し勾配を使う。

11　手押しかんな盤は、テーブル面(下面)に回転刃がある。

12　自動一面かんな盤は、テーブル面(下面)の反対側(上面)に回転刃がある。

13　電気ドリルには、正回転と逆回転するものがある。

14　水盛杭の間隔は、約1.8mとし、杭の頭をいすか切りにするとよい。

15　割栗地業を行う場合、割栗石は、平置きよりもこば立てに並べる方がよい。

16　アンカーボルトの先端は、ナットの外側にねじが3山以上出るように固定するとよい。

17　外部に張るラス下地は、千鳥に継ぐ。

18　厚さ12mmのフローリング張りとする床組の根太間隔は、450mmにするとよい。

19　羽子板ボルトは、通し柱と胴差の接合に使用されることがある。

20　ラワン材は、木造建築物の土台に適している。

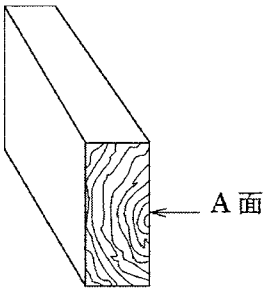
21　木造平屋建ての建て方として、次の順序は正しい。
①土台　→　②軸組(柱、はり等)　→　③小屋組

22　土台火打ちの取付けは、45°で切り、突付釘打ちとする。

23　柱の養生紙は、日焼けや汚れを防ぐ目的もある。

24　台所の水廻りの下地には、せっこうボードを使用するとよい。

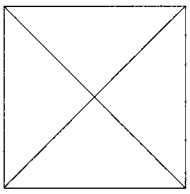
25　次図の材料のA面は、木表である。



26　針葉樹は、木造建築物の構造材として適している。

27　木造建築物の設計図のうち、矩計（かなばかり）図の縮尺の割合は、1/20よりも1/100の方が詳細を表現しやすい。

28　次図の屋根伏図は、方形屋根である。



29　ボール盤や面取り盤等の作業では、手袋を使用しなければならない。

30　労働安全衛生法関係法令によれば、はしご道を設置する場合、はしごの上端の突出し長さは、床面から30cm以上とするとされている。